Be Real 寄りそう知性 大谷大学

報道関係各位　　2017年11月20日

大谷大学　2017年度後期
社会学科　公開講演会「矯正の現状と課題」
講師：京都拘置所所長　宮地重光氏
【日時】11月30日（木）13:00～14:30【会場】大谷大学2号館2202教室
※入場無料　事前申込不要

大谷大学(所在:京都市北区小山上総町/学長:木越 康)は、京都拘置所所長、宮地重光氏を講師に迎えて「矯正の現状と課題」をテーマとした社会学科公開講演会を、2017年11月30日(木)13時より、大谷大学2号館2202教室にて行います。

本講座は、授業の一環として行いますが、入場無料・事前申し込み不要で、どなたでもご参加いただけますので、事前告知ならびに、当日ご取材いただきますようお願い申し上げます。

矯正施設では再犯防止のために、様々な教育的取り組みをしています。さらに法務省は、出所した人を地域全体で支援するためのネットワーク作りを行っています。

矯正施設の取り組み、出所後の居場所作りなど矯正の現状と課題について宮地重光所長にお話しいただきます。

＜講演会のポイント＞

入所受刑者の人員は減少傾向だが、再入者率は上昇。入所受刑者の59.4パーセントが2度以上入所！

平成23年の出所受刑者の5年以内の再入率をみると、出所受刑者の4割近くが5年以内に再び受刑しています。窃盗、覚せい剤の再入率が高く、またこの2つの受刑者は、出所受刑者の過半数を占めています。年齢でいえば、高齢者層の再入率は64歳以下と比べて一貫して高いうえ、出所からごく短期間で再犯する者が多いのが特徴です。

帰住先の有無、就職の有無が再犯率を変える。が、釈放者の半数以上は帰る所がない

再入受刑者の前刑釈放時に帰住先がなかった者の半数以上が1年未満に再犯しています。また、保護観察終了時に有職者の再犯率が7.5%に比べて無職者は29.8%、さらに再入受刑者の再犯時に無職だった者は70%を超えます。しかし、出所後に帰る所がない者は、満期出所者全体の半数以上になります。

平成24年に「再犯防止に向けた総合対策」を展開。多様な施策が行われている

再入者で、増加傾向にあるのが、「高齢者」「女性」「窃盗」「覚せい剤」。このため、それぞれの対象者に応じた指導・支援が広がっています。また、住居や就労の確保をするための制度や対策ができています。

大谷大学　社会学科公開講演会　「矯正の現状と課題」　概要

■日時　2017年11月30日(木)　13:00～14:30
■場所　大谷大学2号館2階2202教室(京都市北区小山上総町)
※京都市営地下鉄烏丸線国際会館行「北大路」駅下車徒歩5分
■定員　30名　※入場無料　事前申込不要

＜本件に関する報道関係者の皆様からのお問合せ先＞
大谷大学　企画課　　安井・平岡　　TEL：075－411－8115　FAX：075－411－8149
大谷大学広報デスク（ﾌﾟﾗﾝﾆﾝｸﾞ・ﾎﾞｰﾄ内）澤田・井上・福嶋　　TEL：06－4391－7156　FAX：06－4393-8216
＜本件に関する一般の方からのお問い合わせ先＞
大谷大学　企画課　TEL：　075－411－8115

※恐れ入りますが、ご取材いただける方は、11月29日（水）までにFAX返信用紙にてご連絡をお願いします。